

行政視察報告

委員会の

産業民教常任委員会

委員長 小林 政彦



能登島観光協会の皆さんと一緒に

■視察の期日

令和7年11月6日～7日

■視察の場所

石川県七尾市、金沢市

■視察の目的

- ①七尾市災害プログラムについて
- ②石川県立図書館について

■視察の概要

(1) 七尾市災害プログラムについて

七尾市は石川県能登半島中央部に位置し、富山湾、七尾湾に面し、能登島を含む面積318・39K㎡で年間を通じて降水量が多い地域です。

今回のプログラムでは、その七尾市の中でも七尾湾を塞ぐように位置する能登島を訪問し、令和6年能登半島地震の被害状況や復興の現状について学びました。

能登島は面積46・78K㎡、周囲長71・9km、島内20町、人口約2,300人、900世帯で漁業と観光業が主な産業です。和倉温泉や七尾街中方面につながる能登島大橋と奥能登方面につながるツインブリッジとの2本の橋により本土とつながっています。2004年の市町村合併により七尾市となり、能登半島国立公園にも含まれます。

2024年の地震では、能登島で震度6強を観測し、特



地元の漁師さんによる震災当時の話

に東側で大きな被害が発生。築50年以上の木造住宅では1階が潰れ、2階部分が残る倒壊が多く見られました。専門家によれば、これは「震度7と同程度の建物被害」と評価される倒れ方だそうです。

地震による地形の変化も大きく、七尾市は約30cm沈降した一方、輪島市は約4m隆起しました。このため、道路ではマンホールが突き出すなど、交通に大きな影響を及ぼしました。

地震直後はインフラが寸断され、水道や電気の復旧に時間がかかり、通信手段も途絶しました。

さらに、震災直後は橋の亀裂や通行止めで島が孤立した



震災を受けた家屋

との情報が飛び交いました。後に一部の車両が通行したという話もありましたが、地元住民は情報不足により大きな不安を抱えていたそうです。

現在、家屋の公費解体は進んでいますが、更地のまま残る場所が多く、新築に踏み切れない住民が多いという声を伺いました。

また、道路は陥没と補修を繰り返す状態で、沈降した七尾市では水道管・下水道管の恒久復旧が依然困難であるとの説明も受けました。

今回の視察を通じて、地震の被害が「建物」だけでなく、「地面そのもの」にも及ぶため、復旧作業の難しさを痛感しました。

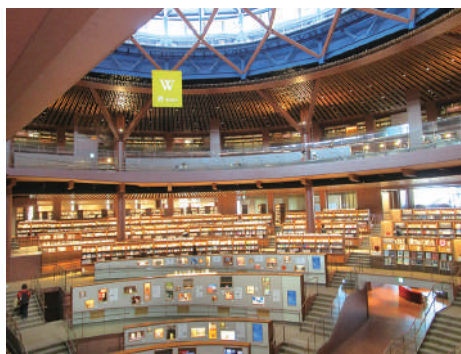
(2) 石川県立図書館について

石川県立図書館（愛称 百万石ビブリオバウム）は、金沢市小立野に位置し、2022年に金沢大学工学部跡地に移転して新館として開館しました。前身は1912年に開館した「石川県勸業博物館図書室」です。

新館は地上4階・地下1階、延床面積22,720㎡の広大な施設で、蔵書は約110万冊、そのうち30万冊は自由に閲覧できます。館内は「閲覧エリア」「文化交流エリア」「子どもエリア」に分かれ、飲食可能なエリアもあります。閲覧席は約500席あり、会話や携帯電話の使用も一部のエリアを除いて可能で、幅広い世代に利用しやすい環境が整っています。

図書検索機やセルフ貸出機、座席予約機をまとめた「セルフステーション」が各所に設置され、簡単に本の検索や貸出、座席の予約ができます。また、古書や貴重書まで検索できる「館内コレクション総合検索機」も整備されており、県立図書館としての機能が充実していました。

利用カードは、県内在住・在勤・在学者だけでなく、東海北陸地区（富山・福井・岐阜・愛知・三重）の住民も作成可能で、広域的な利用が可能です。



階層的なデザインで広々とした空間の図書館

■視察の結果

能登半島地震の被災地を視察し、地域により被害の大きさや復旧の進み方が大きく異なることを改めて実感しました。能登島においても復興はまだ途上で、瓦屋根の修繕、使用できなくなった倉庫の撤去、沈降した港の復旧など、多くの作業が今も続いています。

当村にも片品川左岸断層があり、いつ有事が起こってもおかしくありません。村には優れた地域防災計画や毎年更新される防災マップがあり、断水・停電・孤立といった事態を想定し、迅速に復旧・復興へつなげる体制づくりや、住民の安心につながる取り組みの検討が必要であると感じました。

また、石川県立図書館を視察して、県外からも利用者が訪れるほど魅力的な施設であることが分かりました。多様な分野の書籍がそろい、食事や散策も楽しめる空間は、一日中過ごすことができる「地域の学びと交流の拠点」として非常に参考になりました。

本村においても、尾瀬・丸沼・白根山・武尊山など片品川の資源に関する書籍や写真、資料を集め、村民だけでなく村外の方々も学べる図書館や交流スペースを整備できれば、地域理解の促進や観光振興にもつながると考えられます。また、片品村について説明できる人材が常駐するような施設を道の駅周辺に設けることも、新たな可能性として期待できると感じました。



HAKUBAVALLEY TOURISM 事務局長と一緒に

行政視察報告

委員会の

総務観光常任委員会

委員長 星野 吉弥

■視察の期日

令和7年11月20日～21日

■視察の場所

長野県 下高井郡山之内町
北安曇郡小谷村

■視察の目的

- ①竜王マウンテンリゾートの事業取り組みについて
- ②小谷村の少子高齢化、人口減少、後継者不足等の取り組みについて

■視察の概要

(1) 竜王マウンテンリゾートの事業取り組み

竜王マウンテンリゾートは、1961年に創設され、長野県の信州中野ICから16kmの距離に位置する、四季折々の楽しみが魅力のリゾート施設です。冬はスキー場として夏は観光施設として通年営業しており、グランピング施設11ヶ所や、世界最大級の166人乗りロープウェイをはじめとする8基のリフトなど、多様な体験が可能です。

2024年シーズンには、冬季21.5万人、夏季6.6万人、年間合計28.1万人の来場者を迎えています。特にロープウェイ山頂（1,770m）からは、北アルプスの絶景を一望できるスポットとして人気で、5月から10月にかけては60%以上の確率で雲海を見ることが出来ます。これに合わせて、螺旋階段の新設や星空ナイトシネマ、アートカフェなど、新たな企画も積極的に展開し、さらなる誘客促進に努めているとの説明を受けました。



世界最大級の166人乗りゴンドラ

(2) 小谷村の少子高齢化・人口減少への取り組み

小谷村は長野県の北西部、新潟県との県境に位置し、「中部山岳国立公園」と「妙高戸隠連山国立公園」の二つの国立公園を有する自然豊かな山間地域であり、当村とは観光協定を結んでいる村です。昭和55年当時の人口は5,085人だったのが、2023年3月時点では2,621人に減少しています。一方で、近年はコロナ禍以降、外国籍の定住者が増加し、令和7年3月時点で、人口の約7.2%にあたる188名を占めるまでに至っています。

小谷村は2040年の目標

人口を2,187人と設定し、地域の発展を目指して、周辺の大町市、池田町、松川村、白馬村と連携を強化しています。共同で行っている行政サービスや事業を通じて、住民福祉の向上を図り、地域経済の活性化にも取り組んでいます。

地域経済活性化の新たな取り組みとして地域通過「アルプスベイ」を令和7年より（白馬村、小谷村）2村で導入され、住民サービスの向上及び地域内経済循環の強化が進められているとの説明を受けました。

また、「道の駅小谷／株式会社道の駅おたり」は、1999年に開業し、白馬エリアや新潟県境へのアクセス拠点として機能しています。地域物産の販売、レストラン、天然温泉「深山の湯」など、多面的なサービスを提供しており、登山客やスキー利用者の帰路における需要が高いことから、通年型集客として機能しています。

小谷村には3つのスキー場があり、冬期にはスタッフを含め、2,000人以上の季節労働者が増加し、地域の雇用創出にも貢献しています。さらに、2021年には「おた

り地域づくり協同組合」が設立され安心して働ける環境づくりを進めています。



小谷村議長による説明

■視察の結果

竜王マウンテンリゾートについては、運営を担当している日本スキー場開発株式会社は、当村のオグナススキー場も手掛けており、職員が積極的にアイデアを出し合い、リゾートの運営を盛り上げていることが伺えました。この姿勢を見習い、オグナススキー場や武尊牧場の施設運営においても、村当局との連携を深め、継続的な取り組みに邁進していただければと強く感じました。

また、小谷村については、近年入客の伸び悩み・住民の高齢化・後継者不足といった村の課題は、当村と類似していますが、地域ぐるみで移住定住促進を進め新築住宅200万円・中古住宅120万円の購入費・改修費の補助を行い、現在小学校児童約100名のうち移住による児童が36名と少なからずイターンにより結果が見え始めています。今後住宅環境の改善や整備支援を目指す方向として進めていくとのことであり、当村住宅支援要綱と比較すると恵まれた条件にあると感じ、今後当村においても住宅支援制度の在り方について、交付要綱等の見直しの必要性を感じました。



雲海や山々の景観を楽しめる
竜王マウンテンリゾートの螺旋階段



令和7年度 片品村 中学生議会

令和7年10月17日（金）令和7年度片品村中学生議会が役場2階議場で開催され、23名の生徒が議員となり活発な提案をしていただきました。

議会終了後、生徒に「中学生議会を通して考えたこと、これからの生き方、片品村への関わり」について、各々の思いを書いていたいただきましたので紹介します。

私は0歳から入れる託児所について提案しました。

施設の営業について考えるというのは難しかったです。

わたしたちの提案では、保護者へのアンケート結果から施設の運営について納得してもらえよう、具体的な数字を示しながら発表しました。

この活動を通して片品が今、どんな状況かをこれまで考えたことのない形で考えることができました。今まで気にしたことのない片品村の将来の姿を想像しながら、どんなことをするのが正解なのか模索することは容易ではなかったけれど、私たちの提案が片品村の今後に活用されていければいいなと思いました。

今回の中学生議会は私たちにとつて考え方を改めるとてもいい機会だったと思います。片品村が今後どのようにして進化あるいは変化していくのか今までのように、他人事ではなく自分自身で考えて行動していきたいです。

私は、0歳児から預けることができる託児所の設置について提案しました。

私のお母さんは仕事と家事を両立させることが本当に大変だと話していたことがありました。

中学生議会の準備をしていくにつれて、片品で子育てをする人たちが体験する苦労が少しでも減り、一度しかないお子さんとの時間が楽しい思い出でいっぱいにしてほしいと思うようになりました。

それから、片品のことを好きだなと気づきました。片品は少し不便なところはありますが、「自然の四季が美しい」「野菜が美味しい」「スノーボードもできる」など沢山のいいところがあります。もつと沢山の人が知ってもらえたら嬉しいなと議会を通して思えるようになりました。

片品のことをまじめに話すことはなかったから新しい体験ですごく楽しかったです。ありがとうございます。

私は0歳児から入れる託児所について提案しました。

これからの片品のために私たちに何ができるかを考えたときに、少子化問題に目を向け、育児のことで対策や、支援でもつと何ができるかを考えました。

あまり目を向けないところなので、今どんな支援を片品村がしているのか、育児をしている保護者は、どう思っているのか全然知らず、どんな提案をしたらいいかわからず

とても難しかったです。いろいろ調べ、片品の保育園は1歳児からしか入れないことがわかり、今回の提案をしました。しかし、自分は保護者になったことないため、どんなに大変だったのがわからなかったため、自分のクラスの人にアンケートを取り、いろいろな意見を参考にして、保護者の人が今よりもっと簡単に子育てできるように、班の人と考えました。

片品村のことがもつとわかったし、議会で自分の意見を言うという貴重な体験ができました。

私は0歳から入れる託児所について提案しました。初めて中学生議会に参加して、たくさんさんの経験ができました。9月から毎日のように議会の準備をしました。当日、うまくできるか心配でしたが、きちんと練習とおりにできて良かったです。

議会という場で意見を出したり、他の意見を聞いたりすることで、自分も社会の一員として関わっているという実感が湧きました。普段は教室の中の活動として終わることが、議場という少しフォーマルな場で、自分の意見や質問を投げかけることができたの



は貴重な経験でした。少し緊張したけど、大人への一步を踏み出せた気がします。この経験を通して、「自分の意見を持つて、他の人の意見もよく聞く」という姿勢を、今後の学校や地域活動でも大切にしていきたいと思っています。また、自信も付けることができました。

私は0歳から預けられる託児所について提案しました。何を提案するか考えたときに0歳からでも預けられる託児所があったらいいのではないかなと思いました。今はもう使わなくなった保育園などをなにかに使えるかなと思いい、子供を預けられる場所があれば子育てをしやすくなる

のではないかとみんなで考えました。片品村では保育園が1つになってしまつて使わなくなった保育園の建物をなにか再利用できればいいのではないかなと思いました。その託児所を運営するにあたつてどのように伝えたらわかりやすくなるのかなど、考えるのはとても難しかったです。でも緊張したけど議会で発表ができて良かったです。

社会の授業で議会について勉強をしていましたが、実際に議会をしている場所に行つてみて、すごいところだなと思いました。議会をどのようにやっていくのか知ることができてとても勉強になりました。

私は観光について提案しました。

議会が始まるまでは緊張をしていましたが始めるとだんだん緊張がほぐれていき緊張がなくなりました。

私はこの議会で学んだことがたくさんあります。

まず1つ目は議会です。議会で発表をしました。私は緊張をしていてほば言葉が突っかかってしまいました。でも私はこの議会で発表をしていてだんだん緊張がほぐれていきました。そして、その後の発表が楽になっていきました。

2つ目は聞く力です。私は他の班の発表や村長の発表をずっと聞いていてその議会のテーマも取り入れてほしいなと思ったこともあります。

私は観光について提案しました。

中学生議会ではとても有意義な時間を過ごすことができました。

中学生議会のために過疎化や風化防止のためにグループの仲間と一緒に何週間も前から調べたりまとめたたりして頑張りました。片品のために深く考え、より郷土への愛が強まったことを感じました。

議会の部屋はとても荘厳で空気がほかの場所とは違つており、その重要性が感じられました。今までの事業の話や答弁もとても心に響いて、村長さん、議員の皆さんが私たちや片品の未来について本気で考えてくださっているような気がしてとても嬉しかったです。

中学生議会では課題に対して、どのようにするかを学びました。また、発表の仕方な

ども学ぶことができました。大変勉強になりました。

私はコスプレイベントについて提案しました。

この中学生議会で政治のあり方について理解することができました。授業の一貫ではありましたが、私達の住んでいる片品村をより良くするために、私たちが考え提案をしました。今どのような事をするのが良いのかなど、これらの片品村を考えることは、とても難しかったです。ですが、他の県や地域の政策などの事例をたくさん知ること、提案についてだけでなく、その政策の影響でどのようなことが起こるのかなどの未来への影響を考えることもできるようになりました。村長さん



からの答弁もあり、現実的な回答も受けることができ、今後の提案で活かすことができるようになりました。

このような貴重な体験を通して私は、片品村で過ごす未来を想像し、選挙権が与えられる18歳になったときは、今の状況をしっかりと理解して選挙に行きたいと思いました。

私は「業務用ネット注文施設の導入」について提案しました。何を提案するか決めるとき、片品村の特徴をあげてみたところ、スキー場や尾瀬などの観光地があり、観光客のために宿泊施設が多くあることに気づきました。そこで、片品村の宿泊施設をより良くするための方法について考えようと思い、私の家も旅館をやっているの、何が大変なのかなど色々聞いてみました。すると、片品村にはスーパ一が一つしかなく、多人数のお客さんがいるときには遠くまで買い出しに行かなくてはならないことが大変だとわかりました。ならば大きなスーパーを作ればいいと思いましたが、建物を作るのに多くの費用がかかるし、宿泊施設にお客さんがいないとき、売上が急激に減り潰れてしまう、そしてそこで働く人を雇わな



ければならないなど、いろいろな課題が出てきました。提案したことを実現させるためにこんなに色々考えなくてはならないのだなと思ったし、思っていた以上に大変でした。どうすれば片品村をより活性化できるか考えることがなかなかないので、いい経験になりました。ありがとうございました。

私は連携都市とお裾分けネットスーパードについて提案しました。

私は今までに片品村の課題など考えたことがなかったのですが、今回の中学生議会を通して、片品村にはどんな課題があってその課題を治すのに片品村の良いところも生

かした事業について考えることができませんでした。

私は最近「こんな田舎には住みたくない」「田舎の良いところがどこかわからない」と思っていました。片品村についての良いところや課題について考えてみると、美味しい野菜を安く食べることができ、そして連携都市の美味しい野菜や海産物を食べることができるとの都会にはあまりないメリットがあることに気づくことができました。大人になつて片品村に住んでいるかわからないですが、いいところや課題に目を向け、残りの片品ライフを楽しんでみたいと思うことができました。このようなきっかけを作ってください、大変ありがとうございました。

私は予約制バスについて提案しました。

片品についてあまり深く考えたことがありませんでした。片品はとても綺麗で、片品をより良くするための課題は少子高齢化くらいだと思っていました。でも班になっていざ考えたとき色々な課題が出てきてびっくりしました。そのなかでも必要だなと思ったのが予約制バスでした。片品について調べたら大体、高齢者

が多いなどが出てきて、子供が少ないのだなと改めて思いました。中学生議会でみんなの発表を聞き、確かにと思うことばかりでした。村長さんが質問に一つ一つ答えてくださって実行されるといいなと思いました。

片品は結構いい村だけれど、もつといい村に少しでもなるように自分なりにできることを探してより良くできたらいいなと思います。

私は予約制バスについて提案しました。

議会という所が初めてだったのですごく緊張しました。議場の中は静かでもとても緊張感があり、自分の提案内容を話すとき更に緊張感が増しました。みんなが意見を言うのと村長さんが費用とか時間などの事を分かりやすく答えてくれました。議場が役場にあるのも初めて知りました。

私は村内のことに關してはあまり興味がなかったけど、中学生議会を通して、村のことについて今一度考えることができました。これからは考えることを多くして生活していこうと思います。私は5年後くらいに、片品村にもつとお店とかイベントとか増えた方がいいなと思います。いま人

口は少ないですが少しでも増えると思います。

片品村をより良くするためを考えている事が分かり、これから感謝の気持ちを持って生活していこうと思います。

私は予約制バスについて提案しました。予約でバスを呼ぶことができる政策のメリット・デメリットなどを提案しました。

花咲の方で予約制バスが行われていることを知り、片品村でやればより地域の発展につながるのではないかと思い、予約制バスにしました。発表が終わったときの梅澤村長の答弁で片品をまだまだ自分は知らないと感じました。学校でこの中学生議会を始めるまで、片品のことを知っていたつもりだったのですが、中学生議会を始めてからは自分が



片品村を全く分かっていなかったことを知りました。そのため、この中学生議会という機会が片品村を知ることができて良かったです。

これからは今回の中学生議会で学んだ経験と片品村の知識を活かし、片品村にできることをやっていきたいです。

私は予約制バスについて提案しました。

他の班の提案を聞き、片品にはまだ、こんなにも課題があるのだなと思いました。自分は、予約制バスを提案するにあたって、片品には高齢者の方が多いと知り、高齢者でも過ごしやすい町に変わってほしいと考えました。また、提案内容を考えているうちに、片品村と真剣に向き合うことができました。

議会での、応答や質問の仕方など、あまり普段意識しないことを学ぶことができました。そして、自分たちが考えた提案を村長や、教育長、議長を始めとした議員の皆様聞いていただき嬉しく思いました。

この活動を通して、社会に関心を持つきっかけになりました。これからは自分の言葉で意見を伝える力を伸ばしていきたいです。

私は公共施設等の活用について提案しました。

実際に片品村の議会に参加させていただき、質問をさせてもらいました。答弁にて村長さんから僕たちの質問に対して賛成の意見やご指摘をもらいました。このことから自分たちの質問のわかりやすさや内容を見直すことができ、それ以外にも片品村で実現可能なもの、不可能なものも知ることができました。

また、議長さんをはじめとする他の皆様も、意見を聞くことはできませんでしたが、真剣に僕達の質問を聞いていただくことができました。

僕は将来片品村を出ていくと思います。しかし片品村をより良くしようとする皆様の姿勢はかっこよく、片品のことをこんなに深く考えていただいていたのだ、と感銘を受けました。また片品村に帰郷したとき、今までよりも更にさらによい村になっていると思います。

本当に貴重な経験を得ることができました。ありがとうございました。

私は公共施設等の有効活用について提案しました。

初めて中学生議会で提案をしました。とても緊張しまし

たが、他の班の提案や村長さんの答弁を聞いて共感することができました。提案を考える前は地域の課題を他人事のように感じていましたが、自分たちにもできることがあると気づきました。

また、議会を通して「話し合うことの大切さ」も学びました。意見が違っても、互いに尊重しながら考えを深めていくことで、新しい視点やアイデアが生まれることを実感しました。これは学校生活だけでなく、将来社会に出たときにも必要な力だと思っています。

この経験を通して、私は「地域の未来は自分たちの手にかかっている」という意識を持つようになりました。これからは、自分にできることを少しずつ行動に移していきたいと思っています。そして、将来どこで暮らすことになっても、地域を大切に思い、関わっていく姿勢を忘れずにいたいのです。

私は公共施設等の活用について提案しました。

公共施設等の活用について提案した理由は、片品村には無料で使える公共施設があるのに、あまり利用したことがないということに気づき、せっかくあるなら使ったほうが良いと思ったが、気軽に利用

できる仕組みがなかったからです。私自身無理なことを言っているという自覚があり、どのように答弁されるかとても気になっていました。そのため無理と言われるのではなく実現が難しいとのことなので今は無理でも今後、実現されるかもしれないと思うと提案した甲斐があったなと思いました。

私は将来片品村に残るかわかりませんが、この議会で提案した経験を活かして生活していきたいと思っています。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

私は公共施設について提案しました。

なぜ私が公共施設を提案しようと思ったかという点と体育館がいつぱいあるのに使わないのはもったいないと思ったからです。そして、勉強スペースがないからあるといいなと思い提案しました。

あまり経験できないことを経験することができて良かったです。実際に議場に立つと凄く緊張して学校で練習していたことがあまり上手くいかなかったけど、いい提案ができて良かったんです。社会の授業で習ってどういう感じなのだろうと気になっていたもので議会はこんな感じと知ること

ができて良かったです。

政治にあまり興味がなかったけど、議会に行って少し興味を持つことができた。さらに政治のことを知りたいと思いました。いい体験をすることができたのできて良かったです。

私は高齢者に対する医療との関わりについて提案しました。

内容は、高齢者の「孤独死」を防ぐための「近所の人たちでの見回り」や、外に出ることが厳しい人のための「オンライン診療」、そして「地域交流を盛んにする」ために、高齢者の方が気軽に参加できるイベントの回数を増やすことについて提案をしました。結果的に、最初に関しては、もう別の方法で確認していたり、オンラインは機材の用意が厳しかったりして断念しました。しかし、イベントの回数増加は、元々考えていたらしく、検討してくれました。

この議会を終えて、提案ごとを考えて実行させるまでには時間がかかり、尚且つ、調べ不足であるとして実行されているものなどもあり、変えることはとても難しいものだと思えました。これから、片品村を良くするために考えて行きたいと思いました。

私は高齢者に対する医療との関わりについて提案しました。議会の場に参加するのは初めてで、いざ立ってみるととても緊張したけど自分たちの案を言うことができてよかったなと思いました。

私は片品村に住んでいる高齢者の方の割合に目を向け、高齢者の方のための医療について考えました。片品村をより良くするための案をグループの人と協力しながら一から考え、よりよい案にするために進めていって頑張りました。そして中学生議会を通して私はいつもテレビなどで見ている議会の場を間近で体験することができました。

これからも片品村全体の活力を向上するために私もいろいろと考えていきたいと思っています。



話のたね

利根沼田猟友会片品支部
(片品村猟友会)

◆農林漁業及び村民の生活を守る◆

ハンターの実情と課題

片品村における農林業被害は、令和6年度で6,278千円となり、前年比120%となっており、有害鳥獣による被害により、農業意欲の低下や耕作放棄地、離農者の増加を引き起こす懸念があります。



イノシシによる掘り起こし

また近年では、住宅地への有害鳥獣の侵入により、全国的に死亡事故も発生しています。村内でも被害や目撃件数が増加し、生活への影響が深刻化しています。利根沼田猟友会片品支部(以下片品村猟友会会員39名)は、狩猟を趣味とする団体で、狩猟

事故の防止、マナー向上や担手の育成、野生鳥獣の保護管理などを行っています。

また、昨今の農林業被害や住宅地への侵入による人員被害の恐れ、尾瀬国立公園内での高山植物の被害などを防止するため、通年で捕獲事業や射撃技術向上等の訓練を実施しています。

村内における令和6年度の捕獲数(各種事業全体)は、ニホンジカ809頭・イノシシ114頭・ニホンザル15頭・ツキノワグマ45頭で、群馬県内でも上位の捕獲数です。捕獲方法は銃器と罠を使用し、夏場等の猟期以外は、銃器での捕獲は安全性を考慮して、罠のみで行っています。罠での捕獲は、餌付けや見回りなど熟練した技術が求められる難しい作業です。



センサーカメラに写るシカ

捕獲した個体は無駄にせず、シカ皮の製品活用やジビエとしての活用に力を入れています。

シカ皮については、尾瀬国立公園から移動する個体を狙って捕獲し、皮を剥いでなめし革へ加工し、群馬県内の特別支援学校の事業の一環として製品化されておられ、道の駅尾瀬かたしなで販売されています。

令和7年8月から、群馬県内の指定施設で放射能基準を下回る個体は、ジビエとして利用可能となり、片品村内で捕獲された個体は「尾瀬ジビエ」として出荷されています。

猟友会員の減少と高齢化は全国でも大きな問題となっており、今後数年間で捕獲数が大きく減少する可能性があります。捕獲数の減少は農林業被害や人身事故の増加に繋がる恐れがあるため、銃器等の取得に対する補助や技術向上支援を行っています。自分の農地を自ら守りたい、地域貢献として従事したい、射撃・狩猟に興味がある方は、役場農林建設課内の事務局までお問い合わせください。

(電話 5812113)



シカ皮の製品

Welcome ゆう けん しゃ
ようこそ 有権者

「若者の声を消さないために」

群馬県立尾瀬高等学校
普通科 3年1組

金子 瑠那 さん



最近、若い人の投票率が低いという話をよく聞きます。自分も前まではその理由がわかる気がしていた。投票しても何も変わらないと思っていた。しかし、日々の生活を振り返ってみると政治は身近な存在だと思ふようになった。物価の上昇で欲しいものを我慢したり、進路についても不安を感じることがあった。それらは全て国や自治体の政策と深く結びついている。政治は私たちの生活の土台を作っているものなのだ。投票しないことも1つの選択肢だと言う人もいる。しかし私は、投票しないという選択は考えることをやめる選択でもあると思う。

その結果、声を上げている一部の人の考えだけが政治に反映されてしまう。

たとえ自分が候補者や政党を支持出来なくても、より納得できる選択肢を選ぶことには意味がある。

自分の1票で社会が劇的に変わることはないかもしれない。それでも、その1票1票の積み重ねが今の社会を作っている。もし、多くの若者が政治について無関心であり続ければ若者の意見は、存在しないものとして扱われてしまうだろう。

有権者になるということは権利であると同時に責任でもあると思う。自分も、政治に対しての知識を持つていくことも自分なりに考えて選択する姿勢を大事にしたい。無関心ではないのではなく、社会の一員として意見を持つ有権者でありたいと思う。

総務観光・産業民教常任委員会

村内要望箇所現地視察

昨年に引き続き、村内各行政区で特に緊急性のある箇所について、12月8日に各行政区の代表者と片品村議会議員全員が出席して現地視察を行いました。視察後に報告会を行い、結果を集計し、要望箇所の早期着手を求めた要望書を令和7年12月23日に高山議長及び萩原副議長から梅澤村長に提出しました。



○傍聴のお知らせ

3月議会を傍聴しませんか！

次回定例会は、**3月5日(木)**の予定です。

一般質問は、開会初日です。一般質問の質疑応答は片品村公式ホームページ(HP)の議会録画中継にて動画を閲覧できます。



☆スマートフォンでもご覧いただけます。
QRコードを読み込んでください。

○議会録画中継について

年4回の定例議会開会日の模様を動画(録画)配信していますので、是非ご覧ください。

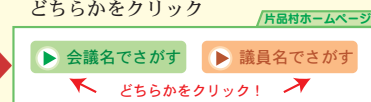
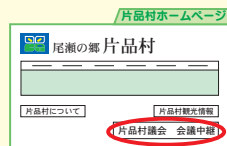
①片品村ホームページトップ画面右側のバナー

「片品村議会 会議中継」をクリック

視聴方法

☆携帯電話でもご覧いただけます。

②「会議名でさがす」「議員名でさがす」
どちらかをクリック



どちらかをクリック！

議会活動目録

| | | |
|-----|--------|----------------------------|
| 10月 | 25日 | 峻嶺祭（文化祭） |
| | 27日 | 村長当選証書付与式 |
| | 28~30日 | 利根郡町村議会議長会県外研修視察 |
| | | |
| 11月 | 3日 | 令和7年度かわば花火大会及び懇談会 |
| | 4日 | 小口資金融資幹旋審査委員会 |
| | 5日 | 群馬県町村議会議員研修会 |
| | 8日 | 尾瀬かたしな秋の収穫感謝祭 |
| | 12~13日 | 町村議会議長全国大会 |
| | " | 群馬県町村議会議長会臨時総会 |
| | " | 群馬県関係国會議員と町村議会議長との意見交換・懇談会 |
| | 17日 | 11月定例利根郡議会議長会 |
| | " | 利根沼田学校組合議員協議会 |
| | " | 広域圏11月定例議員協議会 |
| 12月 | " | 県立高校の在り方に関する情報交換会 |
| | 18日 | 桜花苑理事会 |
| | 20日 | 戸倉ダム建設促進期成同盟会総会・要望活動 |
| | 20~21日 | 総務観光常任委員会行政視察 |
| | 25日 | 広域圏11月議会定例会 |
| | 26日 | 議会運営委員会 |
| | " | 全員協議会 |
| | " | 第2回総合計画についての説明 |
| | 28日 | 利根東部衛生施設組合議会全員協議会 |
| | " | 利根東部衛生施設組合議会定例会 |
| 1月 | " | 片品村行政懇談会 |
| | 1日 | 新民生児童委員委嘱状交付式 |
| | 3日 | 第10回尾瀬かたしな未来構想委員会 |
| | 4日 | 社会福祉協議会 第3回理事会 |
| | " | 片品村共同募金委員会運営委員会 |

| | | |
|-----|-----|---------------------------|
| 12月 | 5日 | 片品村降雪安全祈願祭 |
| | " | 第6回議会定例会開会 |
| | " | 全員協議会（補正予算説明） |
| | " | 鎌田エリア再整備について議会検討会 |
| | 8日 | 令和7年度地区要望箇所現地視察 |
| | 9日 | 第5次片品村総合計画審査委員会 |
| | 10日 | 総務観光常任委員会 |
| | " | 産業民教常任委員会 |
| | 11日 | オグナほか安全祈願祭 |
| | 12日 | 議会運営委員会 |
| 1月 | " | 議会定例会閉会 |
| | " | 尾瀬岩鞍リゾート降雪安全祈願祭 |
| | " | 議会広報編集委員会 |
| | 16日 | 国道120号中央要望活動 |
| | 17日 | 片品村「今残したい片品の景観」写真コンテスト審査 |
| | " | 片品村スキー場連絡協議会・片品村民宿旅館組合連合会 |
| | " | 合同情報交換会 |
| | 18日 | 片品スキー学校開校式 |
| | 20日 | スノーパーク尾瀬戸倉安全祈願祭 |
| | 23日 | 小口資金融資幹旋審査委員会 |
| 2月 | " | 村長へ区要望箇所現地視察要望書及び報告書の提出 |
| | 6日 | 令和8年群馬県議会新春交流会 |
| | " | 上毛新聞社新年交歓会 |
| | 7日 | 令和8年片品村消防団出初式 |
| | " | 第35回片品村賀詞交歓会 |
| | 9日 | スキー場オーナーとの写真撮影 |
| | 11日 | 第78回片品村二十歳を祝う会 |
| | 19日 | 1月定例利根郡議会議長会 |
| | " | 広域圏1月定例議員協議会 |
| | " | 令和8年新年懇話会 |
| 3月 | 23日 | 2026 F M O Z E 賀詞交歓会 |

発行 片品村議会
責任者 高山 悦夫

編集 議会広報編集特別委員会

印刷所 笠原印刷(有)



片品村消防団歳末特別夜警激励式



第78回片品村二十歳を祝う会

議会広報編集特別委員会

| | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 萩原 | 正信 |
| 副委員長 | 星野 | 栄二 |
| 委員 | 飯塚 | 美明 |
| 委員 | 高山 | 悦夫 |
| 委員 | 後藤 | 眞平 |
| 委員 | 北澤 | 佳子 |

編集委員長 萩原 正信

く、輝かしい年となることを願い編集後記とします。

拡大による生息地の減少が挙げられるそうです。幸いにして、片品村では大きな被害はないようでしたが、本年は、大きな災害等もなく、輝かしい年となることを願い編集後記とします。

新年あけましておめでとうございます。昨年は、村長選挙が行われ、梅澤村長3期目がスタートしました。これまでの取組をさらに前進させて、「小さくても輝く村づくり」に邁進しますとしています。議会としては、梅澤村長3期目の取組をしっかりと見守っていくことが必要ではないと思います。また、昨年の漢字は、「熊」となりましたが、全国では、熊による被害者数が230人、死亡者が13人となっています。この熊が増えている主な理由として、ブナやミズナラの凶作による食糧不足、地球温暖化による冬眠期間の変化、そして人間の生活圏拡大による生息地の減少が挙げられるそうです。幸いにして、片品村では大きな被害はないようでしたが、本年は、大きな災害等もなく、輝かしい年となることを願い編集後記とします。

編集後記

